

## 1 級 東京会場【シーチング組み立て】傾向と対策

### <身頃>

- ・ 前身頃は3面構成のパネルラインでバストダーツはウエストダーツを利用したマニピュレーション処理を行う。マニピュレーションの組み立て方はウエストダーツをピン打ちしポケット口が上下突合せになった状態で裏面から接着芯や接着テープで貼り合わせる。その後、パネルラインを伏せ、ポケットを付ける。そのように処理をしないとポケット口が開いてしまいシルエットが崩れる原因になる。
- ・ ウエストの仕上がり寸法を決めたのち前後身頃切り替えのダーツ量、マニピュレーションを行うウエストダーツ量を決める。それぞれのバランスが悪いときれいにシルエットが表せない。
- ・ 切替え線は、なめらかな曲線が描けていないとピン打ちしても思い通りのシルエットにならない。切替えの位置やカーブをデザイン通りに描けるようしっかり練習して試験に臨んでいただきたい。
- ・ 切り替え線のピン打ちでは曲線を直線にするようにアイロンでくせとりを行い、ピンを打つことで身頃の滑らかなラインが表現できる。
- ・ ピンの間隔や打つ位置もシルエットに大きく影響する。どこにピンを打つべきか、どのくらいの間隔でピン打ちするかよく考えて組み立てる。
- ・ 前端のカーブは断ち切りにせず、出来上がり線で折り、縫い代を折り込むが、縫い代が出ないようにある程度ピンで止める。アイロンだけではカーブをうまく折れない場合、ぐし縫いをして縫い代を落ち着かせ、ピンの打ち方や本数でカーブのシルエットが美しく仕上がるように工夫して頂きたい。
- ・ 裾、袖口も前端同様に出来上がりに折り、縫い代が出てこないようにある程度ピンで止める。折られていなければ未完成として不合格になるので注意する。
- ・ 後ろ中心の始末は左身頃の出来上がり線を写し、右身頃を伏せて縫い目を表現する場合もあるが、左身頃を8 cm～10 cmほどの幅で作成し、左右身頃を合わせてピンを打ち、美しい後ろ中心の縫い目を表現して頂きたい。

### <ボタン・ポケット>

- ・ ボタンとポケットの位置やバランスが悪いものなどが見られたが、付け位置、ボタンのバランスなどイラストから判断し、正確に付ける。
- ・ フラップの周囲は断ち切りでもよいが、フラップの周囲に縫い代を取り、出来上がり線に沿ってアイロンを当てながら縫い代を軽く折り上げその後、表からアイロンで折る。またはカーブ部分のみにぐし縫いして折ることで美しいカーブで仕上げることができる。
- ・ 今回の問題は両玉縁付きフラップポケットにボタンが付いたデザインになっており、ポケットに付くボタンを含め、実際のポケットが想像できるような表現をして頂きたい。
- ・ ポケット口はフラップの上側に玉縁が見える構造になっているが、玉縁がないものが見られた。縫製時の玉縁幅を考えフラップに直接書き込むか、または玉縁を作成しフラップと一緒に身頃につけてもよい。

### <衿・衿付け>

- ・ 衿に芯を貼る、貼らないはどちらでもよいが、芯を貼る方が衿外回りの伸びを防ぎ、衿折れ線が滑らかに返る為、芯を貼るほうが望ましい。
- ・ 衿付けは表から縫い代のあたりが出ないように注意し、ピン打ちの際、ピンのすくい量をできるだけ少なくする。
- ・ 衿外回りの縫い代は裁ち切り、縫い代を折り込む、どちらでも美しくできていればよいとされているが、ピンを打たず、縫い代をしっかりと折り込んで仕上げる方が美しい仕上がりになる。その際、縫い代が重なり、浮きやすくなるので衿先のみピンを打つほうが望ましい。

### <袖・袖付け>

- ・ 袖の振りや袖付けが悪いものや、袖の形状が悪いものが多く見られた。
- ・ 袖を組み立てる際、肘のくせを表現するためには、外袖のくせ取りが必要である。内袖の曲線に沿うようにくせ取りを組み立て前に行くことで美しい袖の形状が得られる。
- ・ 袖口明き見せの始末は本物の明き見せを表現する為、後ろ袖切り替え線の明き止まりまでピンを打ち明き見せ部分は持ち出しと見返し分量の縫い代を取りアイロンで折ることが望ましい。
- ・ 肩パッドが縫い代端まで届いていないものや前後片方に付いており、安定した状態で袖付けされず見栄えが悪いものが見られた。肩パッドはアームホールの縫い代に端から端までがしっかりと掛かるように設定する。
- ・ 袖付けのピン打ちは、縫い目線の際を袖付け線に沿って平行に止めるが、ピン打ちやいせ配分の不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。ピン打ちでいせの表現ができない場合は、ぐし縫いをして袖山の形状をある程度整えてから付けるなどの工夫が必要である。
- ・ 袖付けの際、最も重要なことはいせの分量といせの配分を正確に行い、合い印を付けることである。しっかり練習し、試験に望んで頂きたい。

**1級ではシーチング組み立ての完成度の高さを求める。パタンナーの業務として、しかるべき位置に正確にいせを入れ、くせとりを行い、本物の商品が想像できるものでなくてはならない。**

**シーチング組み立ての完成度を上げるためにどのようにピンうちをすればよいか研究や工夫をし、試験に望んで頂きたい。**